

Bridge

Vol.21

KINJOGAKUIN UNIVERSITY Parents' Association Report
金城学院大学 父母会会報「ブリッジ21号」2025.7



Interview

研究と地域を結び、
未来を生き抜く女性を支える
研究推進・地域連携センター。

金城学院大学 特命副学長(研究推進・地域連携センター長) 安田 孝美 教授

研究と地域を結び、 未来を生き抜く女性を支える 研究推進・地域連携センター。

金城学院大学 特命副学長(研究推進・地域連携センター長)

安田 孝美 教授

「強く、優しく。」を教育スローガンに掲げ、
社会の多様な課題解決と持続可能な社会の実現を目指す金城学院大学。

2024年4月に「研究推進・地域連携センター」を設置しました。

この新センターは、 研究活動の推進と地域連携の強化を通じて、
大学のもつ知を社会に還元し、新たな価値創造に貢献することを目指しています。

今回は、センター設置の背景や目的、具体的な活動内容、
そして女性の総合大学としての本学ならではの強みについて、
安田孝美センター長にお話を伺いました。



成長を支援するのが、私たちの使命だと考えています。

「他大学にも同様の組織がありますが、『社会連携センター』や『地域連携センター』といった名称が多く、『研究推進・地域連携センター』という名称はあまり聞いたことがありません。研究活動とは切り離しているところが多いように思いますが…？」

そうですね。なぜ「研究推進」と「地域連携」を一体にしたのか、という点ですが、実は2026年に向けた大学の構想の中で、プロジェクト科目(企業や行政、他学科などと連携し、学生が主体となつて取り組む実践的・参加型の学び)を本格的に設置し、その活動機関を設ける、という計画が以前からありました。プロジェクト活動では地域との連携が不可欠ですが、地域連携だけを担う部署では、大学の研究シーズ*を活かしきれないと考えたのです。大学は高等教育機関であり、同時に研究機関でもあります。単に地域と結びつく文化センター“のような位置づけではなく、大学の深い学びや研究成果を基盤として地域と連携していくことに意味があると考えました。本学の研究シーズを活かしながら地域と連携していくため

には、「研究推進」と「地域連携」は切り離せない、一体となつて進めるべきだという考えから、このようなセンターになりました。

研究推進・地域連携センターは、研究を推進し、地域との懸け橋となるために、三つの柱を持っています。一つ目は、研究活動です。文学、社会学、経営学、心理学、教育学、薬学、工学、生活科学、看護学など、文系、理系、実学にわたる幅広い研究分野の研究者が教員として在籍しており、その教育力を活かして先端研究に取り組んでいます。社会の課題を研究で解決したり、企業等との共同研究で社会に新しい動きをもたらしたり、大学ならではの知を活かして積極的な研究を推進しています。研究成果は社会の課題解決や未来の創造に活かされ、広く社会に還元されています。二つ目は、地域連携です。地域の自治体やNPO、企業と協力し、多様な連携活動を通じて、発見や価値を見つけて社会に還元しています。より強固な連携を図るため、企業や自治体等と協定を締結し、継続的な協働も推進しています。連携事業の具体的な事例としては、岐阜県富加町との地方創生に関する取り組み、HISとの旅行プラン計画、国土交通省や名古屋市、大成建設と連携した

三の丸エリア活性化へのマルシェ出店計画などがあります。地域連携の窓口として、教員や学生との連携活動、講演会・講師派遣、出店・ワークショップに関する相談など、さまざまなニーズに対応しています。

「『地域連携』というやや堅い印象があったのですが、『金城リリーマルシェ』など、気軽に参加できる機会を提供されていて、良い意味で驚きました。

金城リリーマルシェは、「大学と地域をつなぐ」をコンセプトに、2024年から始まった地域社会と大学の接点です。プロジェクト科目によっては、商品開発や成果の発表の場としても活用されています。また、「学内だけで楽しくやろう」ではなく、地域の個人事業主の方、特に女性オーナーのキッチンカーなど、学生たちのロールモデルとなるような方にも多数出店いただいています。これは、学生たちにとって、アントレプレナーシップ教育を受けた自分たちの未来像を具体的にイメージする、非常に有意義な機会となります。私たちとしても、そういったお店に参加いただくのは、とてもありがたいと感じております。また、2026年の経営学部開設も視野に入れ、

「2018年に女性みらい研究センターができた際も、『金城学院大学らしい』と感じましたが、2024年、研究推進・地域連携センターが設立された経緯や、その概要について改めてお聞かせいただけますか。

本センターの前身となる女性みらい研究センターは「働きながら本格的に学び直しをしたい」という方や、再就職をめざしている子育て世代の女性をサポートの中心に据えていました。しかし、現代社会が抱える課題は、女性のことだけを考えていては解決できません。少子高齢化や多様性を認めた共生社会の構築といった課題には、男性も含めた広い視点が必要です。また、女性の総合大学として、年代を問わず地域と未来を支える女性の活動を実現する研究や人材育成を担う責務があります。こうした社会のニーズに応え、大学の研究活動全体を支援・推進し、地域との「懸け橋」となるべく設立されたのが、研究推進・地域連携センターです。

本センターは女性を応援するだけでなく、社会や地域と連携することで、社会課題を改めて考える多くの機会を提供する場でもあります。まだまだジェンダーギャップが残る社会では、女性が自身でキャリアを形成し、理想の人生をリードできるようになる必要があります。そこで、研究と地域連携、女性みらいを考える講座を通じて、さまざまな年代の女性たちや、女性を理解したい人々の知的好奇心を刺激し、その前進と

学生が出店する際にも無料ではありません。「在学生なのになぜ？」と疑問に思われるかもしれませんが、これも先を見通してのことです。社会に出たら、マルシェに出店するには必ず費用がかかることを学生のうちに経験させるためです。ちゃんと経営が成り立つ形を実践的に学んでもらいたいと考えています。

さらに、有松絞りや美濃和紙の布を使った商品など、学外の皆様とコラボレーションした学生プロジェクトも出店しています。これは課題解決に向けた活動を知ってもらう機会にもなります。地域の方々に開放されるマルシェ開催日には、多くの方がお越しいただき、学生にも好評です。看護学や薬学といった、一見マルシェとは関係が薄く思える専門分野を学ぶ学生にとっても、学内でそういう風景を見ることが「こういう活動もあるのか」と、貴重な気づきを得ています。そして、三つ目の柱は、女性みらいです。

「女性みらい。130年以上にわたり、女性教育を牽引してきた金城学院ならではの柱ですね。

はい。地域の皆様や社会人の方が、生涯にわたって学び続けられるきっかけと学習機会を提供できるよう、「学び続ける人々を応援」していくものです。正規授業の受講、興味のある分野を学ぶ公開講座、社会課題を新しく発見できる講座、学外との連携講座など、学ぶ人に

CAREER
SUPPORT
CENTER

キャリア支援センターの特徴・強み

キャリア支援センターが実施する就職支援プログラムは、2年次に開催する就職プレガイダンスから本格的にスタート。前年度の就職状況の実態や今年度の分析、履歴書の書き方、業界・企業研究、グループディスカッション、面接指導など、きめ細やかなサポート体制を整えています。また、本学のキャリアサポートの特徴は個別指導が充実していることです。最後まで学生一人ひとりに寄り添いサポートします。

Point
1

2年生後期

就職活動と聞いて「何をすれば良いのか」具体的にイメージすることは難しい時期です。就職プレガイダンスでは、就職活動の流れや今後開催されるガイダンス、インターンシップ、長期休暇の過ごし方について伝えます。これから本格化する就活準備で、具体的に「どう行動していけば良いのか」を考えていきます。

Point
2

3年生(5年生)前期

就職活動のスケジュールや業界研究の進め方、就活マナーポイント動画など就職活動の基礎・基本を伝えるガイダンスを実施しています。また自己分析講座やインターンシップ参加に向けた対策講座を行うことで、「自身のキャリアビジョン」について一緒に考えていきます。さらに夏のインターンシップが本格化する直前に、企業の人事担当者やOGから直接お話を聞くことができるインターンシップ・業界研究セミナーを実施しています。イベントを通してインターンシップ応募のための業界研究・仕事研究を行います。

Point
3

3年生(5年生)後期

エントリーシート作成講座や面接対策講座など実践練習を意識したガイダンスを数多く実施しています。エントリーシート作成講座では、学生の進捗に合わせ2つのコースを実施しています。集団面接対策講座、グループディスカッション対策講座では、本番さながらの実践練習と講師からのフィードバックを受けることができます。これまでに培った知識をアウトプットする場となり、実践力が養われます。また、ひとつのテーマについて異なる業界の企業3社がパネルディスカッションを行う業界研究セミナーを実施、同時に複数の企業を比較しながら、さまざまな視点で業界のお話を伺うことで、より深く業界と企業を理解します。

Point
4

3年生(5年生)就職活動直前期

学内合同セミナーでは、企業の人事担当者から業界の担う使命や課題、企業の役割、仕事のやりがいについてお話を伺います。学外のイベントの説明では一般的な話になりがち。「金城生のため」に「金城生を積極的に採用している」企業の人事担当者やOGから、直接社員の一日スケジュールや実際の働き方について講演をしていただきます。

Point
5

就職活動本番

3月1日を過ぎると採用情報が解禁されると同時に選考が本格化していきます。個別の相談や添削、面接練習に対応するべく最大19名のスタッフを動員し、学生一人ひとりに寄り添った丁寧な支援を行っています。また面談ごとに記録を残し情報を共有することで、チーム一丸となった就職支援を行っています。

キャリア支援センターの
取り組みや就職実績はこちら!

親子就活のススメ



紹介動画



MESSAGE

学生の自発的な
「就業観」を
醸成します

金城学院大学
キャリア支援センター

昨今の就職活動における環境は、年々変化しています。選考のハイブリッド化、就活の早期化、インターンシップの取り扱い変更など、様々な不安を感じているご父母の方や学生もいらっしゃると思います。希望した会社に入ることが就職活動のゴールでは決してありません。入社はあくまでもスタート。私たちキャリア支援センターではこのような考え方のもと、入社後の活躍や生き方まで見据えた支援に取り組んでいます。

キャリア支援センターの特色は「就業観」の醸成を重視していること。社会人として働いていくうえで、どのような心構えが求められるか。それを私たちから一方的に教えるのではなく、学生自ら考え、気づくことが何より重要であると考えています。だからこそ私たちは学生一人ひとりに寄り添い、対話を重視した個別支援を徹底しております。今後も引き続き、エントリーシートの添削指導、面接練習等は、対面とオンラインで対応してまいります。学内での就活イベントにおいても適切な時期に適切な情報が学生へ届くように運営を行っています。対面とオンラインの両面による支援の充実をより一層図り、学生それぞれの置かれた状況にしっかりと向き合い、寄り添うことで一人ひとりの個性を尊重した就活支援を実施しています。

キャリア・アップ講座について

ライセンススクールなどの講師の講義や指導が格安で受講できる資格取得・採用試験対策講座。学内で受講するだけでなく、自宅からいつでも受講できるオンライン講座も多数揃えています。

「この講座を受ければ間違いなし!」

と学生の間で評判の講座もあるほです。

公務員	教養試験対策 [基礎1・2年生向][完成 市役所コース] [完成 県庁/名古屋コース]
	保育専門科目対策
教員	採用試験対策[教養試験][小学校全科] 採用模擬試験(2科目/3科目)
外国語 スキル	はじめてのTOEIC® L&Rコース TOEIC® L&R 600点コース
資格	マナー・プロトコール検定[3級][2級]
	秘書検定[2級][準1級]
	MOS検定
	簿記検定[3級][2級]
	宅建試験
	通関士試験
	貿易実務検定C級
	FP技能検定3級
	ITパスポート試験
	Webクリエイター能力認定試験
資格	情報セキュリティマネジメント試験
	基本情報技術者試験
	国内旅行業務取扱管理者試験

※講座により学内、自宅、学外など受講方法が異なります

詳細はURLまたは
二次元コードよりご覧ください
<https://www.kinjo-u.ac.jp/careerup/>



合格奨励金制度

キャリア・アップ講座を受講して、採用試験や資格試験に合格した方を対象に、奨励金をお渡しします(非常勤・委託・契約の合格を除く)。自己申告制で、合格から3カ月以内の申請が必要です。

※合格奨励金対象講座はHPよりご確認ください

安田孝美(やすだ たかみ)プロフィール

◆学位:工学博士

◆名古屋大学大学院工学研究科情報工学専攻博士後期課程単位取得満期退学、工学博士を取得。名古屋大学では助手、助教授、教授として長年教育・研究に携わり、2017年の情報学部設立に部局責任者として関わる。ICTにおける新技術と、それらがもたらす新しい社会のあり方について、文理の枠を超えて多方面から研究を行っている。2025年4月 金城学院大学 特命副学長・教授(研究推進・地域連携センター長)に就任。社会情報学会副会長及び理事、情報文化学会理事及び評議員等を歴任。総務省東海地域Lアラート推進連絡会会長、中部圏イノベーション推進機構ナゴヤイノベーションズガレッジ運営委員会委員長、中部圏デジタルツイン推進準備委員会委員長等、地域の産官学連携活動にも積極的に関わっている。

◆研究分野:情報メディア学、社会情報学



合わせた方法で生涯の学びを支援しています。例えば、研究活動から社会課題を発見する公開講座や、研究成果から個人的な課題の解決策を考える公開講座などを開講しています。

「研究と教育を結ぶセンターの役割が、今後さらに重要となっていきそうですね。」

まさに「研究推進」の重要性を感じています。本学には、さまざまな研究をされている先生方がたくさんいらっしゃいますし、企業等との共同研究活動も多くあります。調べてみると、実は東海地区でもナンバーワンといえるほどの数の活動を行っていました。しかし、先生方がそれぞれで活動されているものの、大学全体としてはその全容を把握する組織や仕組みができていなかったのです。それらの活動をきちんと「見える化」し、外部に表現していくことによって、金城学院大学の先生方がどのような研究や活動をしているのかが明らかになります。そうすると、それを見た企業の方などが「うちでもこんな研究をしてみたい」と興味を持ち、新たな連携が生まれる可能性があります。そうしたプラスの動きを生み出したいと考えています。「地域連携」に関しても同様です。先生方が地域に向けて多彩な活動を行っています。これが体系的に「見える化」して表現することで、他の自治体等との連携の可能性も広がります。

「研究と地域を結ぶことで、今後の女性の未来を支えるセンターになる、というわけですね。」

その通りです。社会には、残念ながら未だにジェンダーギャップが存在します。大学の教育においては、依然として残るこのジェンダーギャップに対応するためにも、学生が社会に出た際に自信を持つて

現代社会ではさまざまな課題が表面化しており、一つの組織だけでは解決策を見つけられないケースが多くあります。大学の役割は、学問や研究という「シーズ」を社会課題にどう結びつけ、社会実装していくかということです。そのマッチングができるような役割を本センターで担いたいと思っています。そのため、研究推進と地域連携は一緒にやっていくべきなのです。

本センターができたことで、個々の活動が集約され、大学全体として研究・地域連携の取り組みを推進できるようになり、より強い組織になったと感じています。学外と大学の知をつなぐだけでなく、学内の研究や教育をつなげる役割も担っています。本学は、文系・理系・実学の多くの研究分野を持つ教員が在籍する総合大学であり、一つのキャンパスで多様な学部・学科が協働し、共に学ぶ環境があります。この多様な学びの中で、自身だけでなく社会をリードする女性を育てる大学を、しっかりと支えてまいります。

活躍できるよう、大学の中でさまざまな経験を積んでおくことが大切だと考えています。特に、地域連携やプロジェクト科目などを通じて、実社会に近い経験を積み、さまざまなハードルを感じることも、学生のうちにきちんと失敗をしておくことも、社会に出てからの自信につながる大切な経験となるはずです。

「女子大学」だからではなく、「女子教育のバイオニア」といっても過言ではない歴史を持つ「金城学院大学」だからこそできる教育があると自負しております。本学で学んだ卒業生が社会でどのように活躍しているかを、今後センターとしてもヒアリングし、広く伝えていきたいと考えています。

本学は、キリスト教精神に基づいた一貫した人格教育を行っており、これが学生の人間としての成長に大きく寄与しています。金城学院ならではの教育を通じて人間性を培い、社会と積極的に関わる中で実学を経験し、自信を持って社会に羽ばたいていく学生たちを、私たちはこれからも全力で応援し、支援してまいります。

保護者の皆様が、お子様を金城学院大学に送り出すという決断をなさったことは、本当に素晴らしいご判断だったと心から思います。「金城学院」という選択に、ぜひプライドを持っていたいただければ幸いです。

※将来新しい商品やサービスに育つ可能性のある「技術やアイデアのタネ」のこと。

単位:円

収 入 の 部		2024年度収支決算			2025年度収支予算		
		決算額	予算額	増 減	2024年度予算額	2025年度予算額	増 減
前年度繰越金		42,153,597	42,153,597	0	32,705,965	42,153,597	△ 9,447,632
入会金	7,000円	7,112,000	7,091,000	21,000	6,244,000	7,091,000	△ 847,000
会費	12,000円	56,076,000	57,732,000	△ 1,656,000	54,372,000	57,732,000	△ 3,360,000
雑収入	預金利息	15,910	10,000	5,910	10,000	10,000	0
	合計	105,357,507	106,986,597	△ 1,629,090	93,331,965	106,986,597	△ 13,654,632
支 出 の 部		決算額	予算額	増 減	2024年度予算額	2025年度予算額	増 減
		決算額	予算額	増 減	2024年度予算額	2025年度予算額	増 減
学生教育支援助成費		4,677,520	4,800,000	△ 122,480	3,600,000	4,800,000	△ 1,200,000
学生キャリア教育助成費		15,000,000	15,000,000	0	15,000,000	15,000,000	0
学生活動助成費		10,744,453	13,493,200	△ 2,748,747	13,157,200	13,493,200	△ 336,000
学生指導助成費		2,089,557	2,886,600	△ 797,043	2,718,600	2,886,600	△ 168,000
教育研究助成費		12,901,308	14,538,000	△ 1,636,692	12,411,000	14,538,000	△ 2,127,000
教員研修助成費		2,129,924	3,950,000	△ 1,820,076	3,950,000	3,950,000	0
事務研修助成費		1,600,000	1,600,000	0	1,600,000	1,600,000	0
地区別懇談会助成費		2,419,000	3,200,000	△ 781,000	3,200,000	3,200,000	0
卒業記念事業費		4,000,000	4,000,000	0	4,000,000	4,000,000	0
環境整備助成費		7,000,000	7,000,000	0	7,000,000	7,000,000	0
父母会活動費		7,043,690	7,350,000	△ 306,310	8,200,000	7,350,000	850,000
学生施設建設助成積立金		2,000,000	2,000,000	0	2,000,000	2,000,000	0
周年事業積立金		1,000,000	1,000,000	0	1,000,000	1,000,000	0
雑費		46,090	200,000	△ 153,910	200,000	200,000	0
予備費		0	25,968,797	△ 25,968,797	15,295,165	25,968,797	△ 10,673,632
次年度繰越金		32,705,965	—	32,705,965	—	—	—
	合計	105,357,507	106,986,597	△ 1,629,090	93,331,965	106,986,597	△ 13,654,632
特 別 会 計 の 部							
		組入額合計					
学生施設建設助成積立金		26,000,000					
周年事業積立金		5,000,000					

2024年度 父母会卒業記念品

産官学連携で防災グッズを開発！

1人1つのオリジナル防災グッズをご息女に配りました。

松坂屋名古屋店×名古屋市守山区×金城学院大学による産官学連携の共同開発で、オリジナル防災グッズを作成。地震や台風などのさまざまな災害に備え、万が一の場合にも対応できるようご息女に配付をしました。[内容]金城オリジナルサコッシュ、防災ガイドメモ(女性用)、蓄光LEDライト、レインコート、水に流せるペーパー歯みがきシート、ウェットタオル、ティッシュ、絆創膏と綿棒セット、携帯トイレ、ビニール袋、マスク、野菜ジュース、おにぎり(わかめ味)、水(500ml)



保証人ポータルサイト

K-PORT

保証人の皆さまがご息女の授業時間割や成績、大学からのお知らせを確認することができるポータルサイトです。学生向けのポータルサイトと同じ名称(K-PORT)ですが、学生と保証人で確認できる事項が異なります。重要なお知らせを発信しておりますので、定期的にご確認ください。

アクセス方法
「金城学院大学 K-PORT」と検索してください

または右の
二次元コードを
ご利用ください。



ログイン方法
IDとパスワードを入力してください

IDと仮パスワードを記載した
葉書を送付済みです。
お受け取りになった葉書は
ご息女が卒業されるまで
大切に保管してください。

定期総会報告

去る2025年6月4日(水)大学にて父母会定期総会が開催され、
2024年度の事業報告・決算、2025年度の事業計画・予算などが承認されました。

2024年度事業報告		2025年度事業計画
入学生の父母対象に以下の内容について説明を行う。 ① キリスト教教育について ② 教育方針等について ③ 学生生活について ④ 大学父母会の活動について	入学式後の 父母対象 大学説明会	入学生の父母対象に以下の内容について説明を行う。 ① キリスト教教育について ② 教育方針等について ③ 学生生活について ④ 大学父母会の活動について
2024年5月22日(水) 1 定期総会審議事項の確認 ① 2024年度役員候補者 ② 2023年度事業報告 ③ 2023年度決算報告 ④ 2024年度事業計画 ⑤ 2024年度予算 ⑥ 金城学院大学父母会論文掲載料助成規程の廃止について 2 教育懇談 ----- 新旧役員の歓送迎会	役 員 会	2025年5月22日(木) 1 定期総会審議事項の確認 ① 2025年度役員候補者 ② 2024年度事業報告 ③ 2024年度決算報告 ④ 2025年度事業計画 ⑤ 2025年度予算 ⑥ 金城学院大学父母会会則の一部変更について 2 教育懇談 ----- 新旧役員の歓送迎会
2024年6月5日(水) 1 定期総会 ① 2023年度事業報告 ② 2023年度決算報告 ③ 2024年度事業計画 ④ 2024年度予算 ⑤ 2024年度役員 2 全体説明会 ① 大学の現状報告 ② 就職状況について ③ 保証人ポータルサイトについて 3 学科別懇談会 4 映画「ディア・ファミリー」特別試写会		2025年6月4日(水) 1 定期総会 ① 2024年度事業報告 ② 2024年度決算報告 ③ 2025年度事業計画 ④ 2025年度予算 ⑤ 金城学院大学父母会会則の一部変更について ⑥ 2025年度役員 2 全体説明会 ① 大学の現状報告 ② 保証人ポータルサイトについて ③ 就職状況について 3 講演会 4 学科別懇談会
四日市／2024年8月24日(土) 浜 松／2024年8月31日(土)※台風のため中止 金 沢／2024年9月 9日(月) 岐 阜／2024年9月14日(土) 大学の教育方針・近況等の説明／学生生活・就職状況の説明／ 個別懇談(成績関係、就職関係、その他)	地区別懇談会	岐 阜／2025年8月23日(土) 浜 松／2025年8月30日(土) 金 沢／2025年9月 8日(月) 四日市／2025年9月13日(土) 大学の教育方針・近況等の説明／学生生活・就職状況の説明／ 個別懇談(成績関係、就職関係、その他)
2024年11月14日(木) 大学の近況報告／教育懇談		2025年11月13日(木) 大学の近況報告／教育懇談
2025年2月13日(木) 今年度父母会活動の総括／卒業記念事業について／ 金城学院大学父母会海外・国内研修助成費規程の一部変更について／ 次年度事業日程について／教育懇談	役 員 会	2026年2月19日(木) 今年度父母会活動の総括／卒業記念事業について／ 次年度事業日程について／教育懇談

金城学院大学父母会 会長 風岡 明憲

今年度より父母会会長を務めさせていただきます風岡明憲と申します。

会員の皆様におかれましては、ますますご清栄のことと心よりお慶び申し上げます。日頃は父母会の活動に深いご理解とご協力を賜りまして誠にありがとうございます。

この度、大学の取り組みや父母会活動についてご報告させていただく父母会会報誌「Bridge」第21号が完成しましたのでお届けいたします。

6月4日に開催されました定期総会には、お忙しい中、多数の方々にご出席をいただき誠にありがとうございました。皆様のご協力によりまして、別頁に掲載しております議案につきまして、すべて原案通りご承認いただきました。総会後には全体説明会を大学側で開催していただき、大学における様々な教育研究活動や学生の学修状況、就職活動の状況や保証人ポータルサイトについて説明していただきました。その後、看護学部長の市川誠一教授により、「エイズ、40年を越えて ～すべての人が平等に保健・医療・福祉が受けられる社会の形成～」と題し、ご講演いただきました。学科別懇談会では、会場を移動し学科ごとに分かれて、先生方と親しく懇談する機会が与えられ大変有意義な時間を持つことができました。すべてのプログラムが実りあるものでありましたことを大変喜んでおります。

今後も父母会として大学の教育研究活動及び学生生活の充実を図るために支援させていただくとともに、大学と父母相互の協力関係を築き、学生の成長はもちろんのこと、大学の発展にも寄与してまいります。

最後になりましたが、引き続き父母会へのご協力を賜りますようお願いするとともに、会員皆様のなご一層のご健勝を心からお祈り申し上げまして、ごあいさつに代えさせていただきます。

金城学院大学 学長 小室 尚子

父母会会員の皆様には、学生への奨学金や課外活動、また教員の研究活動への助成など、本学の教育や研究に多大なご支援をいただき、深く御礼申し上げます。さらには、2024年度卒業記念品として、学生一人ひとりに防災グッズを寄贈していただきました。昨今、震災や豪雨災害など予想がつかない自然災害が各地で発生しております。とにかく備えだけは怠ってはならないと肝に命じております。重ねて御礼を申し上げます。

大学の環境としましては、2021年度のKMP21の完成に加え、2022年度4月にはキャンパス西側のW5棟と東側の旧校舎跡地の整備が完了し、すべてのキャンパスリニューアルを終えて、学生たちが快適に過ごす空間と、学修効率と効果を高める環境を整えることができました。また、2022年度にスタートいたしました、看護学部・看護学科という新たな教育研究領域も第一期生は本年度で最高学年となり、いよいよ国家試験に挑戦することになります。

ひとつのキャンパスに文系と理系の学部が集う女性の総合大学というかたちは、本学の強みです。学生たちにとって研究領域が異なる学生間に出会いが生まれ、刺激が生まれます。新しいものを創出する可能性が広がり、チャレンジの機会も増えます。教員には他学部との交流を積極的に行っていくように働きかけておりますし、互いの学部について知るための交流の機会も増やしていきたいと考えております。それらは必ず学生の皆さんのキャリア形成のプラスになり、社会に貢献できる人へと成長していくための、大きな力になると信じております。

なお、本学では、2026年度より一部教育組織の見直しや学科名称の変更などを実施いたしますが、このことで現在在学中の学生の皆さんの学部・学科に影響が及ぶことはありませんので、ご安心いただけますようお願い申し上げます。現在の教育体制は、学生の皆さんが学位記を授与されて卒業されるまで、来年度設置の学部・学科と並行して進めてまいります。

これからも建学の精神を堅持し、教育と研究のいっそうの発展を目指してまいります。ご父母の皆様からも、お嬢様方が幅広い視野を持って自発的に学修していけるよう、ご助言いただけますと幸いに存じます。